

調査の概要

○調査実施日 令和7年9月2日（火）  
○調査の目的 ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。  
◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。  
◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。  
◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。  
○調査内容 ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科A/B・英語）  
◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）  
○調査参加者 中学3年生（本市参加者 559 人）  
※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部分です。

調査結果について

【①教科別平均点・対府平均比経年比較】

本市の平均点は、国語において府平均との差が昨年度より改善し、対府平均比も0.99とほぼ府平均に近い水準となりました。特に英語では対府平均比が0.90と経年的にも正答率が下がり続けていることから、重点的に改善すべき課題として捉えております。  
【②教科別得点分布・無解答率】  
得点分布を見ると、府の分布と大きく変わらない結果となりました。  
無解答率については、昨年度より改善が見られ、府平均を下回る教科がありました。全体をとおして、府平均を上回る教科が多く、問題への粘り強い取組や記述へのチャレンジが課題であると捉えております。  
【③観点別・設問別結果】  
観点別にみると、全ての教科で府の傾向と同じような結果となりました。

国語が府平均との差が縮まり、無解答率も減少するなど全体的に成果が表れています。今後は、生徒一人ひとりのつますきにに応じた個別最適な指導を一層推進します。また、基礎内容の確実な定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を高める学習活動の充実に努めてまいります。

今後に向けて

【学力向上が見られた市内学校の取組】

- ・「課題設定と振り返り部門」「グループワーク部門」など、学年や教科の壁を取り払って、教員がチームで生徒の課題に応じた研究に取り組んでいる。
  - ・学校全体で教員同士が日々の授業を参観し合い、教科の指導方法や発言のポイントなどを具体的にアドバイスし合うことで、日々の指導力向上を図る「相互授業参観」の取組を行っている。
  - ・授業の質を高めるため、研究授業のリハーサルに有志の生徒が参加し、「ここが難しかった」「こうすればもっと分かりやすい」といった生徒目線の意見を取り入れることで、教員と生徒が協力して、より良い学びの場を作り上げている。
- 教育委員会では、これらの取組を好事例として、その意義・目的とあわせて市内全体に普及させてまいります。

【教育委員会の方策】

- ・チャレンジテストの分析結果を市内で共有し、各校の課題に正対した授業改善につながるよう支援する。
- ・指導主事を各校に派遣し、授業や取組に対する指導助言、教員研修等の充実を通して各校の授業改善、学力向上の取組を支援する。
- ・英語コーディネーター（市全体の外国語教育の充実を目的としている加配教員）を中心に、担当者連絡会を充実させるとともに、公開授業及び協議等をおして市内に好事例を発信し、市内各校の授業改善を図る。
- ・教育委員会が主催している「摂津SUNSUN塾」について積極的に周知し、基礎的基本的な学習内容の定着や学習習慣を身につけるための場を提供する。
- ・一人一台のＩＣＴ端末の効果的な活用方法について、各学校の好事例を共有するとともに、より効果的な活用についての指導・助言を行う。

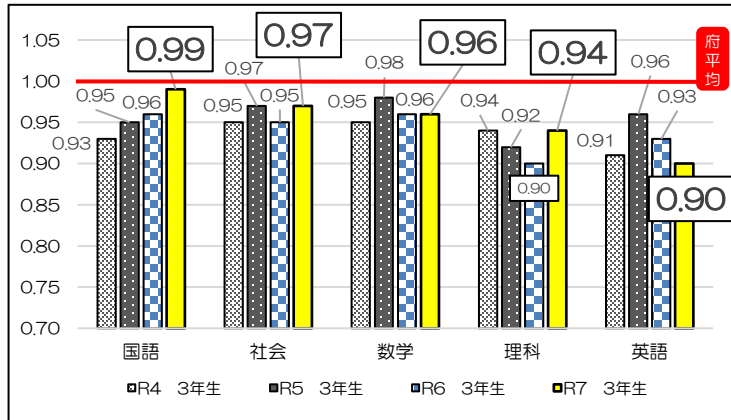
【家庭へのお願い】

- 〈基本的生活習慣の定着〉  
適切な生活リズムを意図的につくり、発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促していただきますようお願いいたします。
- 〈家庭学習・主体的な学びへの支援〉  
学年に応じて家庭学習の適切な時間を定め、子どもと一緒に学習する時間も設けながら、主体的に学習できるようご支援をお願いします。
- 〈スマートフォンやゲーム等のルールづくり〉  
ゲームやスマートフォン等の使用状況を把握し、使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、適切なルールを決めていただきますようお願いいたします。

①教科別平均点・対府平均比経年比較

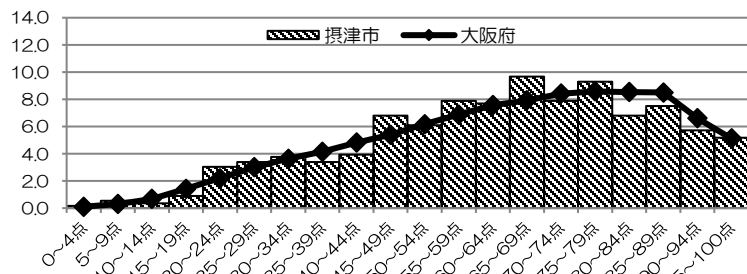
	国語	社会	数学	理科	英語
本市平均点	63.3	49.9	51.7	43.1	47.7
大阪府平均点	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2
対府平均比	0.99	0.97	0.96	0.94	0.90

※対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。

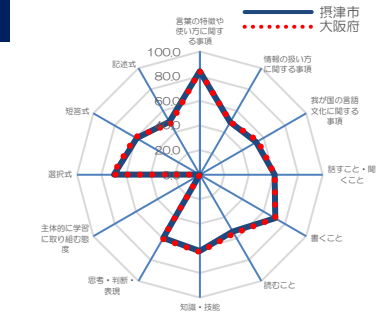


②教科別得点分布・無解答率

無解答率 本市6.5%（令和6年度 5.3%） 大阪府 6.8 %（令和6年度 5.3 %）



③観点別・設問別結果



国語

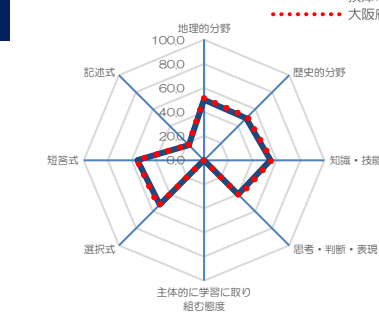
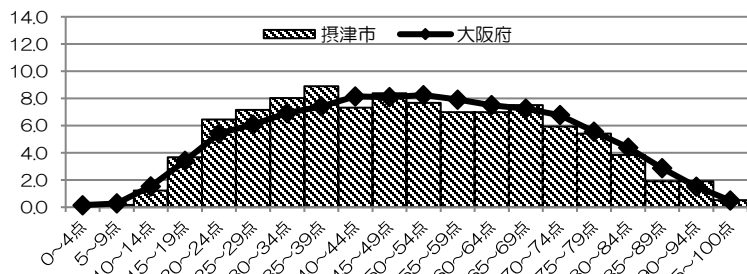
社会

数学

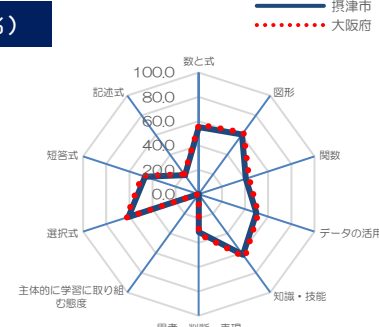
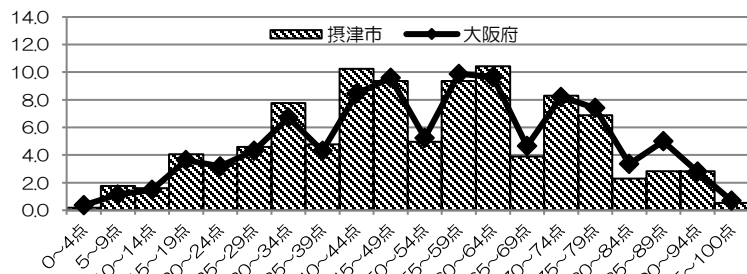
理科

英語

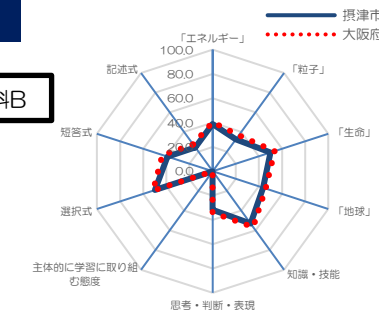
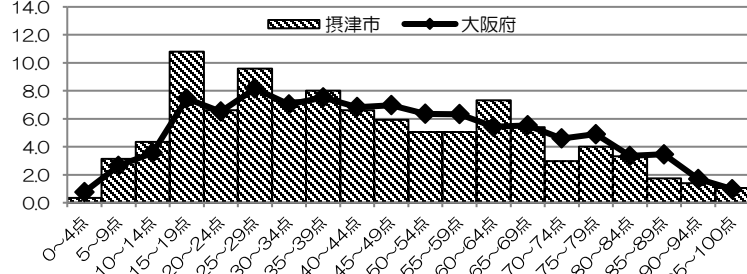
無解答率 本市 6.5 %（令和6年度5.1 %） 大阪府 6.5 %（令和6年度5.0 %）



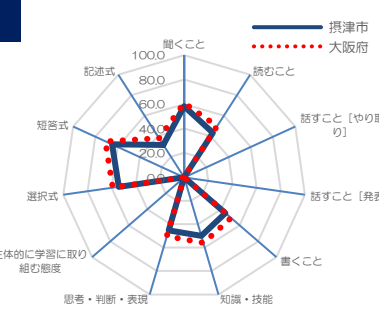
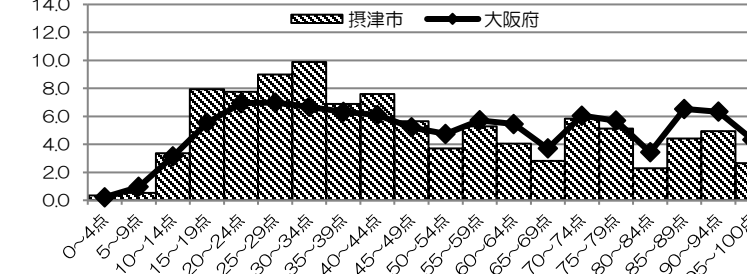
無解答率 本市 13.2 %（令和6年度14.9 %） 大阪府 12.1 %（令和6年度14.8 %）



無解答率 本市 12.2 %（令和6年度5.4 %） 大阪府 11.0 %（令和6年度4.4 %）



無解答率 本市 8.3 %（令和6年度7.3 %） 大阪府 7.4 %（令和6年度6.9 %）



## 授業についての意識調査

### 【生徒アンケートの概要と全体傾向】

生徒アンケートでは、授業中の学習活動、学習集団としてのあり方、家庭学習やインターネット利用など、多面的な観点について、生徒自身の感じ方や学習行動を回答しています。

全体的には、「授業中の学習活動」に関する項目で肯定的な回答が昨年度より増加しており、各中学校が進めてきた授業改善の成果が一定程度反映されたものと捉えています。

### 【学習方法・主体性・家庭学習習慣の定着】

項目①・②・⑤では、昨年度から大きく改善し、生徒の学習行動に前向きな変化が見られました。これらの結果から、生徒が主体的に学習へ向かう姿勢が向上していることが分かります。

また、小学校との連携を強化し、家庭学習週間の取組の継続や、授業外での学びの意味付けを支援することで、生徒自身が成長を自覚できるような仕組みづくりを進めてまいります。

### 【授業改善】

項目③・④では、大阪府全体および昨年度と比較して高い値を示しました。思考ツールやタブレット端末を使った整理・共有活動が定着し、自分の考えを深める学習活動や友だちとの意見交換が日常的に行われていることが示唆されています。

これらは、本市が継続的に進めてきた授業改善の取組の成果であると捉えています。

### 【学級等の集団づくり】

項目⑥では大阪府平均を上回り、昨年度から5.4ポイント増加し、改善が見られた。学級内に異なる意見を受け入れる雰囲気広がりがつつあることが分かりました。

項目⑦の他者と協力する意識が、昨年度から2.7ポイントの増加し、改善が見られました。授業や行事において、生徒同士が話し合い、協力して解決する活動を重視してきた教育活動の成果が表れています。

肯定的に変化している背景には、生徒同士が良いところを伝え合う活動や、グループワークの中で感謝を共有する取組など、心理的安全性を高める学校の工夫が影響していると考えられます。

今後も、本市がめざす「すべての人にとって居心地がよい、持続可能な学校」を実現するため、生徒間のつながりを大切に学級づくりを推進してまいります。

### 【粘り強さ・家庭でのスマートフォンの活用・読書習慣】

項目⑧では、肯定的な回答をした生徒の割合が、昨年度から6.4ポイント増加し、改善が見られた。学校生活全体で粘り強く取り組む力が育まれています。

項目⑨は、社会的な出来事に関するニュースの視聴状況は昨年度と同程度でした。

項目⑩では、2時間以上読書する生徒の割合が昨年度よりやや増加し、府全体の平均と同様の傾向が見られます。

項目⑪では、学習以外でのスマートフォン利用時間が減少し、府平均と同程度の結果となりました。しかし、3時間以上使用している生徒の割合が全体の6割程度いることから、家庭と連携しながら適切な使用を促す指導を継続します。

### 【アンケート結果の活用】

大阪府全体の分析では、アンケート項目に肯定的に回答した生徒ほど、チャレンジテストの正答率も高い傾向が確認されています。本市としても、この分析を踏まえ、学力向上とあわせて、生徒が「学びに向かう姿勢」を育む授業改善をさらに進めてまいります。

ご家庭におかれましても、家庭学習習慣の定着に向けたご協力をお願い申し上げます。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「力だめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご利用ください。

### 【力だめしプリント】

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

### 【ワークブック】

<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

### 【ことばのちから】

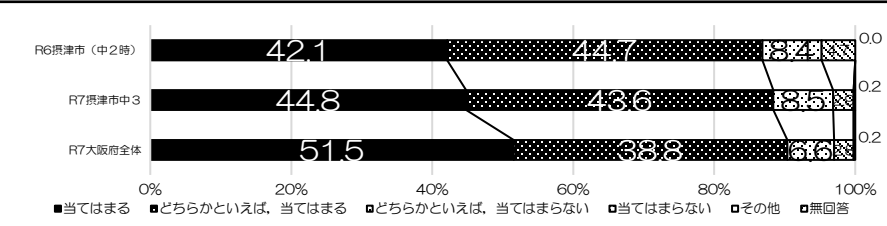
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuyou.html>

### 【中学生チャレンジテスト】（正答例なども掲載）

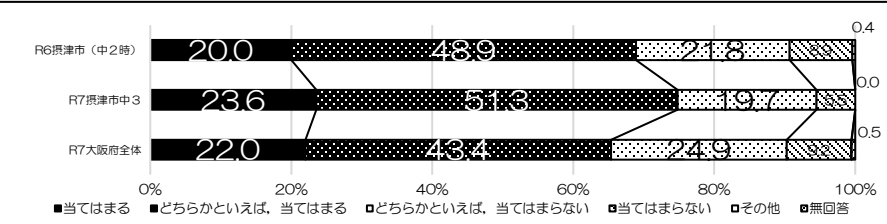
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

## 今年度大阪府全体の回答との比較

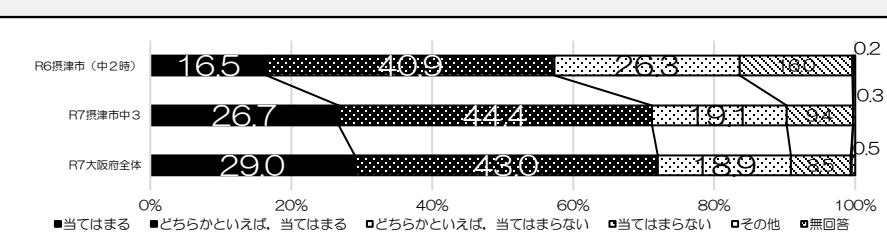
### ①文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる



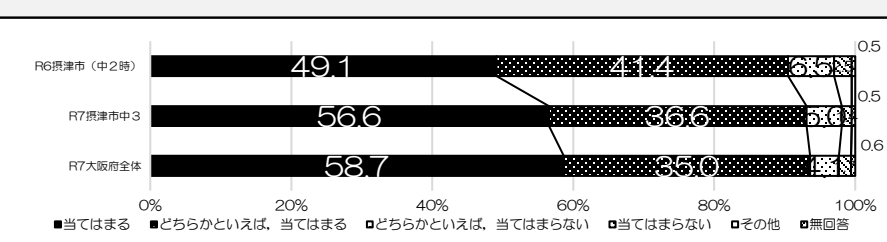
### ③授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある



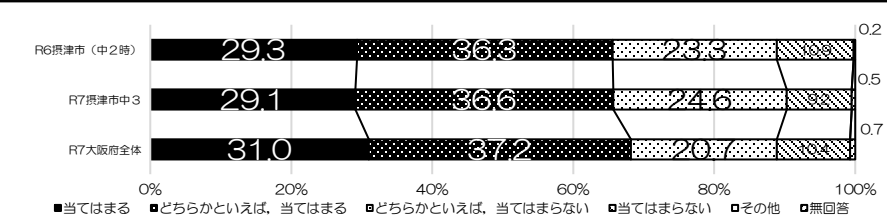
### ⑤家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している



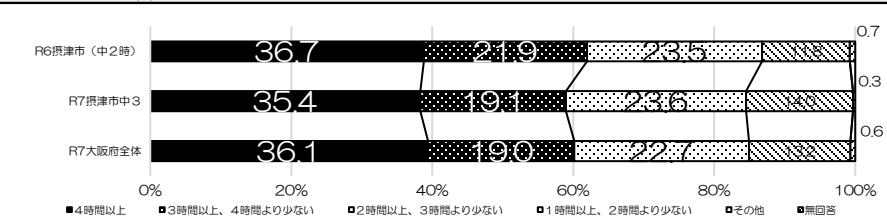
### ⑦学校などで、他の人と協力し合うことができる



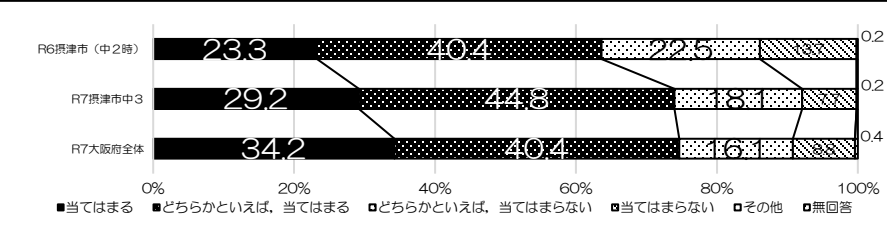
### ⑨テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている



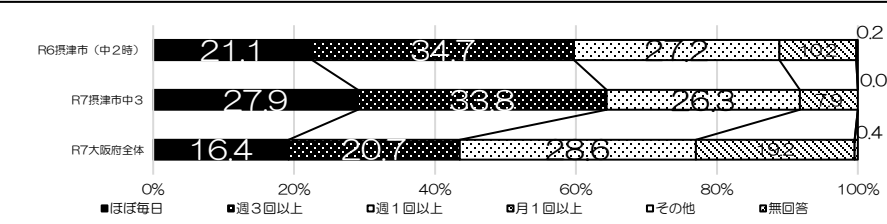
### ⑪普段（月曜日から日曜日）、1日平均どれくらいの時間、学習以外（ゲームやSNS等）にスマートフォンやタブレットを使っていますか



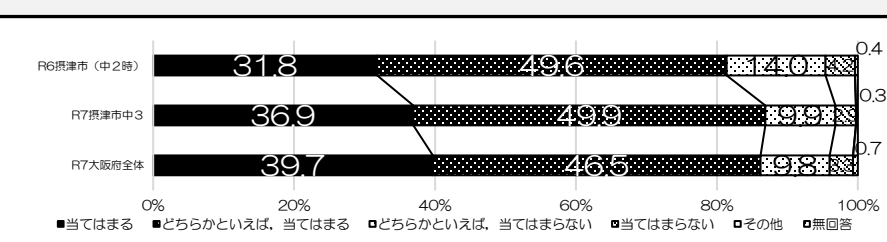
### ②わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている



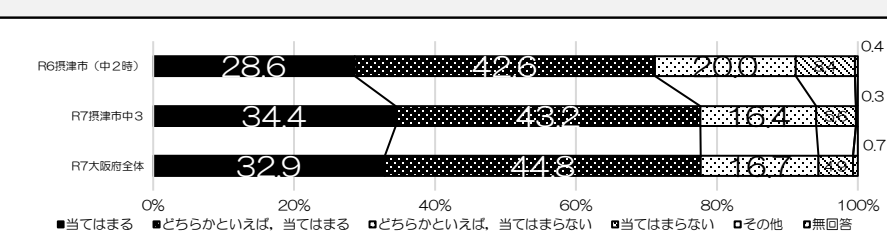
### ④授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか



### ⑥あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある



### ⑧難しいことがあっても、あきらめない



### ⑩普段（月曜日から日曜日）、1日平均どれくらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか

